
読解問題の解答 01月4週（ヘチマ）

問1の答え 2

問2の答え 1

問3の答え 3

問4の答え 2

問5の答え 2

問6の答え 1

問7の答え 3

問8の答え 2

【まちがえやすい箇所の解説】

問3は、「A 頭を下げてあやまるのは日本人だけである。……×」「B 『自分が悪かった』と言う言葉について考えると、日本人のそれより、フランス人のほうが重みがある。……○」です。長文には、「日本人は簡単にあやまる」「頭を下げるというのが、日本社会でゆるしのえられる唯一の行為である」とは書いてありますが、「日本人だけ」とは書いていないので、Aは×です。また、長文には、「フランスでの『自分が悪かった』ということばの重みである」と書いてあるので、Bは○です。

問4は、「A 日本人は、言い訳をするより、潔くあやまる方が許しを得られることが多い。……○」「B 日本通の外国人が、まず最初に習得するのは、頭を下げてあやまるという行為である。……×」です。Aは、長文に同じことが書いてあるので○です。Bは、長文には「日本文化の型になじんだ外国人のなかには、……人もいる」と書いてありますが、「最初に習得するのは」ということではないので×です。つまり、必ずしもそうとは言えないので×にするという消去法の考え方です。

問7は、「合わないものはどれでしょう」という設問でしたが、「合うもの」を選んでしまった人が多かったようです。

問8の「普遍的」の意味は、小学6年生にはやや難しかったかもしれませんが、長文の中にある「人と人とのつながりをなめらかにするという普遍的知恵に通じるものがある」という言葉に、選択肢の普遍的の意味をあてはめてみるとわかります。

次回2. 4週は、読解マラソン集の5～8番から出題する予定です。

読解問題の解答 02月4週（ヘチマ）

問1の答え 4

問2の答え 1

問3の答え 2

問4の答え 3

問5の答え 2

問6の答え 1

問7の答え 1

問8の答え 4

【まちがえやすい箇所の解説】

問7

A 保吉が初めて間近に見た海は、青い色ではなかった。……○

B 母親は、海の色は青く塗るものだと思っていた。……○
×○とした人が多かったようです。

Aは、前半に、「海はただ幾重かの海苔粗朶の向こうに青あおと煙っているばかりである」ともあるのですが、×としたくなりますが、「渚に近い海は少しも青い色を帯びていない」と書いてあるので、間近に見た海は青くないということで○です。

問8

A 保吉は、海が青くないことをいつまでも否定しようとしていた。……×

B 保吉は、初めての海が怖くて、なかなか海に入れなかった。……×

○×とした人が多かったようです。
Aは、「青くないことを……否定しよう」という二重否定の文です。この二重否定の文をそのまま考えると、頭が混乱してきます。こういう文にぶつかったときは、二重否定を単純な肯定に直して考えるとわかりやすくなります。この場合は、「海が青いことを肯定していた」となっています。

Bは、「保吉は初め砂の上へ静かに寄せてくるさざ波を怖れた。が、それは父や叔父と海の中へはいりかけたほんの二、三分の感情だった」となっています。「なかなか海に入れなかった」ではないので、×です。

読解問題の解答 03月4週（フジ）

問1の答え 1

問2の答え 2

問3の答え 2

問4の答え 1

問5の答え 2

問6の答え 2

問7の答え 1

問8の答え 2

1 ～ 3 月

小1	PDF	nane		小2	PDF	nane		小3	PDF	nane	
小4	PDF	nane		小5	PDF	nane		小6	PDF	nane	
中1	PDF	nane		中2	PDF	nane		中3	PDF	nane	
高1	PDF	nane		高2	PDF	nane		高3	PDF	nane	